進修館 × 今帰仁村中央公民館 交流記念企画　11/04（月･祝）開催レポート

めんそ～れ！　沖縄県なきじんまつり in 進修館

「象設計集団が手掛けた公共施設」という共通項がきかっけで、緩やかな交流をしている進修館と今帰仁村。２年にわたる親交が文化交流の一歩を踏み出しました。催しの様子をご報告します。

【最高のステージを！】

今帰仁村の一行は総勢７０余名。公演を控えた「北山の風」「今帰仁子ども太鼓いまじん」のみなさんは前日午後から進修館入りし、入念なリハーサルを行いました。その熱の入りようは、進修館スタッフも圧倒されるばかり。「最高のステージを見てほしいから」というメンバーと共に、夜遅くまで準備をしました。そして迎えた当日。会場となった大ホールは、４００名を超える観客で超満員となりました。

【宮代音頭でお出迎え】

公演に先立ち、宮代町民俗舞踊連盟と有志の方々による「宮代音頭」の演舞が披露されました。１０月開催した練習会の成果もあり、観客席を囲んだ踊りの輪が会場を盛り上げ、今帰仁村のみなさまへの歓迎の気持ちが場内に広がりました。

【会場みんなでカチャーシー】

公演は「今帰仁子ども太鼓いまじん」の演舞からスタートしました。勇壮な琉球太鼓や獅子舞の迫力に、会場は一気に沖縄の雰囲気になりました。また、沖縄の方言で「かきまぜる」という意味があるという踊り「カチャーシー」を教えていただき、独特の音色に合わせて、みなさん笑顔で踊りました。

【物販も充実！】

今回の「なきじんまつり」では、今帰仁村の事業者による物販も行われ、大好評でした。公演に先立ち、物販は１１時からスタートしましたが、進修館が開館すると間もなく販売を待つ人の列ができるほど。沖縄そばやサーターアンダギーなど食の販売の他、今帰仁村の特産品や化粧品などの商品が並んだ会場で、みなさんお買い物を楽しんでいらっしゃいました。

【迫力ある演技「北山の風」】

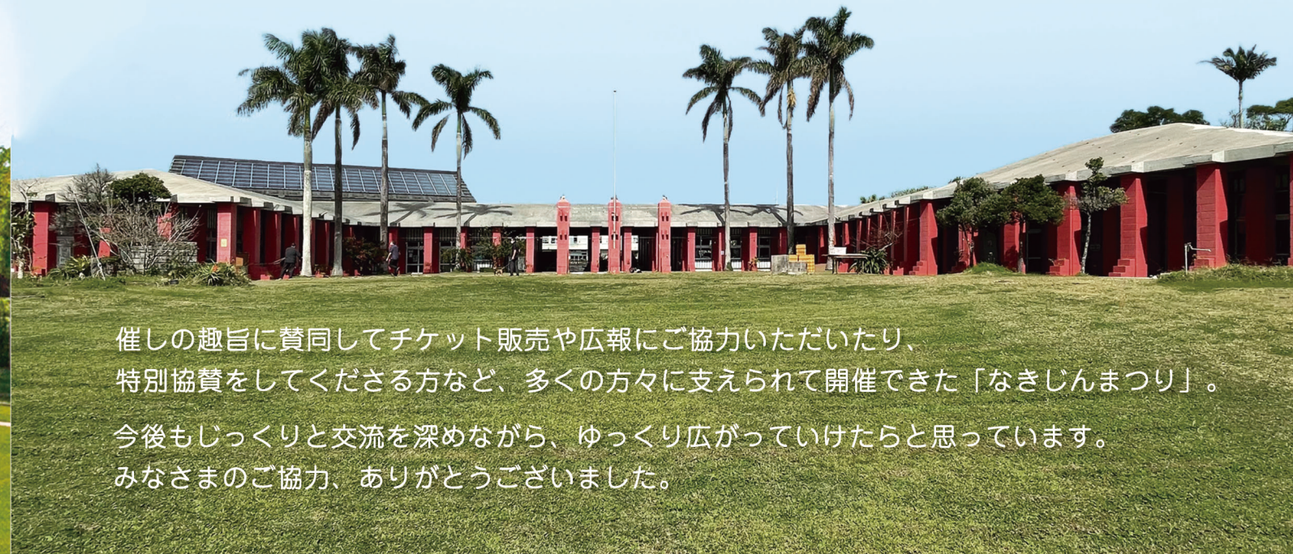
後半は、世界遺産今帰仁グスクにまつわる物語に芝居、ダンス、琉球舞踊、空手を織り交ぜた「現代版組踊『北山の風～今帰仁城風雲録～』」公演。沖縄本島北部やんばる（主に今帰仁村・本部町・名護市）の小学３年生から高校３年生までの子どもたちで結成されている「北山の風」ですが、今回は中学生以上の選抜メンバーが出演し、本来は90分のところ、特別ダイジェスト版として４５分の公演となりました。今帰仁城にあった北山王朝最後の王「攀安知」と北山の山狗と呼ばれた副将「本部太原」との確執を描いた物語が繰り広げられ、完成度の高いステージに、感動の涙を流す方も多かったようです。

【民泊で地域交流】

「なきじんまつり」開催にあたって、進修館が大切にしたかったのは「交流」でした。大ホールでの公演だけでなく、交流の輪を宮代町に広げることができないだろうか？と考え、８町会連合会の協力を得て、「北山の風」メンバー２０名を新道集会所に民泊させていただくことになりました。８町会とは８月頃から打合せ始めました。話し合いの中でいつも心掛けていたのは、「今帰仁村から来る子どもたちは、どんなことをしたら喜んでくれるだろうか？」ということでした。例えば食事については、「仕出しではなく地域のみなさんで作って温かいものを食べさせてあげたい。」と思案した結果、カレーライスに決まりました。地域のお手伝いの人も含め50人前のカレーを作るのは、分量などの見当もつきにくいところですが、経験者の方が的確にアドバイスをしたり、カレーは中辛でいいのかな？甘口もいるのかな？と迷ったりなど、大変ながらも楽しい話し合いが続きました。また、お菓子作りが上手な方が「シフォンケーキをデザートにどうでしょうか？」と言ってくださり、豊かなメニューとなりました。

会場となった新道集会所前の公園には、地域のお神輿がライトアップされ、とても幻想的な雰囲気になっていました。公演を終えて集会所に来た子どもたちは、温かい食事を食べた後、公園で花火をしたり、子ども神輿や山車、太鼓など沖縄にはない文化に触れて、疲れも見せずに楽しんでいました。

翌朝、帰路に就く子どもたちは「宮代町を第２の故郷だと思って、また来ます」とあいさつしてくれました。送り出す８町会のみなさんも、「本当に楽しかった」「いい子たちだったね～。」など、笑顔があふれていました。



催しの趣旨に賛同してチケット販売や広報にご協力いただいたり、
特別協賛をしてくださる方など、多くの方々に支えられて開催できた「なきじんまつり」。

今後もじっくりと交流を深めながら、ゆっくり広がっていけたらと思っています。
みなさまのご協力、ありがとうございました。